

■シリーズ 市民が語る戦争体験 1

私のシベリア抑留 星野喜一氏の体験談

■21年度新収資料の紹介

■21年度当館収蔵資料の使用

二〇二〇年四月

通巻101号

# 沼津市明治史料館通信

## ごあいさつ

昭和59年10月の開館以来、館報として発行してきました「沼津市明治史料館通信」ですが、前号でめでたく100号を迎えることができました。これもひとえにみなさまのご愛顧あってこそと存じます。深く感謝申し上げます。

今回、101号を機に大幅にリニューアルしてみました。B5版からA4版になり読みやすくなったと思いますが、いかがでしょうか？連載記事も新しく「シリーズ市民が語る戦争体験」が加わり、今後も順次追加していく予定です。乞御期待。

今後もよりよい博物館を目指して館員一同邁進していく所存です。より一層のご支援をお願い申し上げます。

館長

# 私のシベリア抑留

## 星野喜一さんの体験談

星野氏略歴

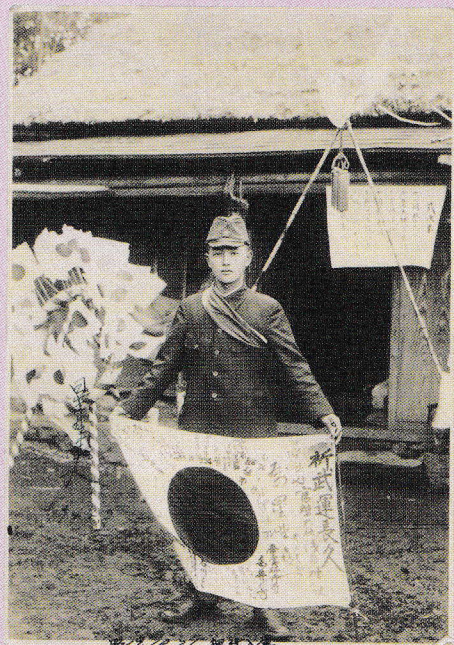
大正十四年十月 富士宮市に生まれる

昭和十九年十月 満州独立輜重第五二大隊

(通称三七五二部隊) に入営

関東軍石頭予備士官学校入校

本稿では昭和20年8月15日の終戦以降の体験談を紹介します。



現役兵として出征当日の星野喜一氏 (昭和19年10月21日)

### 欺かれて

#### 汽車は北へ向った

昭和二十年八月二十一日、長白山系を  
行軍中、終戦が伝えられた。吉林省沙河  
沿で武装解除され、敦化に集結した。こ  
こは関東軍第一方面軍司令部があつたと  
ころである。

ソ連軍極東総司令官の指令が出た。

「日本の軍人・軍属は牡丹江から汽車に  
乗ってウラジオストクへ行く。そこから  
日本へ帰すから規律を守れ」

敦化から牡丹江まで二三〇キロ、日本  
へ帰りたい一心でひたすら歩き続けた。  
途中の山中に、日本軍将兵の遺体がある  
ままになっていて痛恨の極みであった。  
やっとの思いで牡丹江にたどり着いた。  
しかし、一ヶ月待っても汽車は来ない。  
焦立ってきた。秋風が肌を突き刺すよう

な十月末。貨車に着いた。

「お前たちは、それに乗って行くんだか  
ら、人間が乗れるように中を改造しろ」

夢中になって二段ベッド、トイレ、ス  
トープなどを取り付け、みんな争うよう  
に貨車に乗り込んだ。

汽車は東へ進んで綏芬河の町を過ぎ、  
更に東へ東へと走った。

ある日、ふと気がつくと、最初三〇  
四〇輛だったのが、いつの間にか、一〇  
〇輛以上になっていた。

「おい、この汽車は北に向かっているぞ」  
「だまされたッ」

大騒ぎになったが、もうどうにもなら  
ない。

汽車は無情にも走り続け、ハバロフス  
クを通り過ぎ、コムソモリスクに着いた。

十一月。地面の雪は凍りついていて。  
貨車から降ろされて、米国製GMCとい  
う大型トラックに乗せられた。

更に北へ、北へ。耳は冷たいどころか  
痛い。やがて有刺鉄線に囲まれた数棟の  
建物に着く。望楼を見るとソ連兵が監視  
している。ここに四〜五〇〇名が収容さ  
れた。

私の抑留生活はこうして始まった。

### 吐く息で

#### まつげが凍る重労働

支給される食事は、握りこぶし三分の  
二ほどの燕麦や高粱で作った黒パンが一  
日二食。スープは塩味もなく、具もほと  
んどない。たちまち栄養不良になった。

冬の太陽は九時半頃出て、午後二時半  
頃には沈んでしまう。木の梢の上に光は  
射すが、一日の大半は夜である。

夏はその反対に夜が短く白夜だ。しか  
も夏でも地下三〇センチメートル以下は  
永久凍土だった。

### 用語解説

#### ヤルタ会談

一九四五年二月、クリミア半島のヤ  
ルタで行われたF. ルーズベルト(ア  
メリカ合衆国)・チャーチル(イギリ  
ス)・スターリン(ソビエト連邦)によ  
る首脳会談。対日秘密協定が結ばれ、  
ドイツ降伏後九〇日以内にソ連が日本  
との戦争に参戦すること、モンゴルの  
現状は維持されること、樺太(サハリ  
ン)南部をソ連に返還すること、千島  
列島をソ連に引き渡すこと、満州の港  
湾と鉄道におけるソ連の権益確保、な  
どが決められた。



ヤルタ会談

春になって、白樺の芽が吹いてきた。その芽を片端から食べた。蛙もみんな食べてしまい、生き物は殆どいなくなつた。気温が零下三〇度以下になると作業は一時待機だが、それより少しでも上昇すると、「作業開始」の号令が出る。すぐに整列、暗い中出発する。寒い朝など、吐く息でまつげが凍りつくので手で押さえ、溶かす。それに寒さは体の自由を奪う悪魔だ。

我々に割当てられた伐採作業は、鉄道建設予定地内にある巨木、直径一メートル以上、高さ二〇〜三〇メートルの樅・榎・トドマツなどを切り倒すことである。作業は二人一組、二メートルを超す積雪を掻き分け、やっと目標の木にたどりつく。と先ず斧で倒す方向側の幹を削り、次に真中が湾曲した長さ一・二メートルの二人用鋸で切り込んでゆく。斧の震動で凍った枯れ枝が落ちてくる。

「危ない、退避ッ」  
叫ばれても、栄養失調、深い雪、疲労でふらふらの体は自由がきかない。よければ死傷する者が毎日のように出た。

## 徹底した洗脳教育

抑留中、収容所を何回か移動した。昭和二十一年秋頃入った二〇四収容所では、ソ連が作ったソ同盟ボルシェビキや、マルクスレーニン主義を説いた「日本新聞」が配布された。日本の貧しい農村では「働けど働けど楽にならない」し

かし、社会主義では、共有財産制で貧富の差がない。それは富の分配が平等であるからだ。コルホーズは生産意欲から生産性が高いと毎日教えられた。

毎朝、作業に出発する時、収容所の議長が宣誓する。

「今日も一日がんばって働こう」

「我々は天皇及び天皇制打倒のために闘おう」と拳を突き上げ、全員で呼応して出発した。

民主化運動の模範とされているのが「青年行動隊」という組織であった。「日本新聞」等を教材とした学習や作業を率先励行し、職場にはそれぞれ青年行動隊旗を掲げた。

毎夜、一日を反省し、日和見主義的な態度、反動分子のような行動をした者は厳しく指摘され、自己批判をするよう激しく追及された。学習活動といわれる「洗脳」はますます徹底されて行つた。

## ようやく舞鶴港へ

昭和二十一年十二月十九日、米ソ間で日本人引揚協定ができ、毎月五万人ずつ帰国することになったが殆ど守られなかった。日本側の配船不手際もあったが、それよりソ連側の引き延ばし意図があったらしい。帰国のためナホトカへ着いたのに船がなく、収容するところもないため、再びシベリアへ戻された者も多きいと聞いた。どんな思いだっただろうと本當に気の毒でならない。

辛いことに、ナホトカ到着後、帰国船第一大拓丸が入港してきた。

乗船前、身体検査を受け、サウナに入つたのだが、入浴場の入口と出口が別になつていて、出口には別の服や下着が用意されていて脱いだ服はすべて持っていかれた。

亡くなった戦友の住所を書いたメモや遺品、それに自分が大切に持っていたものの全部取られてしまつて今でも残念でならない。

名簿で確認された上、乗船、出航…。

昭和二十三年八月十八日、舞鶴港の棧橋をようやく渡ることができた。

遠く日本本土の緑が見えた時、なつかしい「青い匂い」がした。その感覚はどうにも理屈にならぬが感激で胸が詰まつた。三年十ヶ月ぶりの日本であった。

シベリア抑留は、飢餓と厳寒と重労働の三重苦に加え、徹底した共産主義の学習、いわゆる「洗脳」があった。帰りたい一心で共産主義者のふりをしたが、帰国後、アカ呼ばわりされ続けた。

平成十七年二月、「戦争体験を記録する会」が発足し、これまで毎月例会を中心に戦争体験を記録してきました。当会では、戦地での兵士の体験だけでなく、戦時下のくらし、「少国民」世代、空襲など実に様々な体験を記録してきました。この貴重な記録を本紙面で紹介していきます。

## 日ソ中立条約

一九四一年四月十三日、松岡洋右外相、ソ連のモロトフ外相と調印。中立友好と領土保全不可侵を約す。有効期間は五年。ソ連は一九四五年四月に条約不延長を通告。ヤルタ協定に従つて八月九日、ソ連は日本に宣戦布告し満州に侵入。

## ポツダム宣言

日本政府は八月十日、ポツダム宣言受諾を連合国側へ通告、同月十五日、国民に向けて終戦の詔（玉音放送）をラジオ放送し、九月二日、降伏文書に調印した。

九、日本国軍隊ハ完全ニ武装ヲ解除セララルル後、各自ノ家庭ニ復帰シ平和的且生産的ノ生活ヲ営ムノ機会ヲ得シメラルベシ

## シベリア抑留

スターリン首相は、ドイツとの戦争で失った労働力を補うため、旧満州などから連行した関東軍兵士ら大量の日本人抑留者を、森林伐採や鉄道建設に酷使した。

抑留された軍人、民間人資料七十六万人分がロシア国立軍事公文書館で見。二〇〇九年七月二十三日、日本政府への提供に合意した。



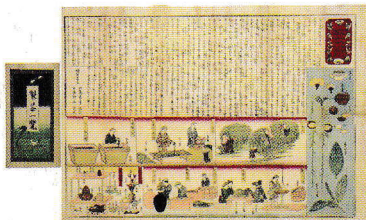
## 平成21年度新収資料の紹介

昨年度、明治史料館に仲間入りした資料です。

寄贈	高村豊様 沼津市消防団第23分団様 諸星龍市様 清水賢子様 沼津市消防団第13分団様 箕輪信和様 阿部ミツ子様 山本徳樹様 大川周作様	鉄兜・軍靴・飯盒など戦時資料 消防で使った鳶口(ヤリ付) 消防手辞令・土地売買証など 千本清水医院関係資料(気胸器械など) 刺子・消防組旗・絡車・文書など 箕輪信文(沼津兵学校資生) 平岡芋作(沼津兵学校教授)関係資料 典籍類 山本繁次郎・富士子肖像画対幅 燭台	その他(購入など)	沼津兵学校に関する資料(関係者等の著書・書簡など)42件 『英吉利会話篇全』『英国史略』『経済説略』渡部温(沼津兵学校教授) 江原素六漢詩幅 「世界地図掛図」2幅(石川東崖) 島田三郎筆葉書・『化学要論』杉田玄端(沼津病院頭取)など 沼津の歴史一般26件 近世 「地震之記」・「浮世絵英泉原ノ駅」 沼津藩関係 写真「菊間藩士親睦会」・「校正音訓五経」菊間藩蔵版など 近代 絵はがき「沼津風景の審美」 刷物「御浜海水冷温浴場保養館開業広告」 「海軍工員採用身体検査要領」沼津海軍工廠廠務部 「沼津町全図」(明治40年)など
	寄託	沼津市消防団第26分団様 沼津市消防団第8分団様 沼津市消防団第30分団様		文書類 文書類 文書類



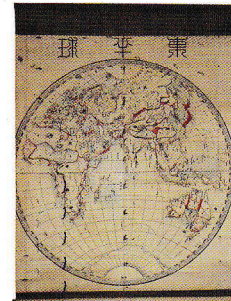
沼津版のひとつ  
渡辺温訳・出版『英国史略』



加藤景孝編述  
『製茶一覽』



沼津藩士山崎継信画・著  
『地震之記』より「小林村変地之図」



石川東崖画「世界地図掛幅」

## 平成21年度当館収蔵資料の使用

明治史料館の資料がいろいろところで活躍しました。

### ☆展示使用

4月	代戯館まつり実行委員会 第6回代戯館まつり「医学博士 荻生録造展」荻生録造関係資料より
5月	勸沼津市振興公社沼津御用邸記念公園 端午の節句展示 祝い着
6月	スルガ銀行清水町支店 店内展示 写真39点
6月	加藤学園高等学校化学部 「沼津市の水環境展」 絵はがき6点・写真10点
8月	numazoo実行委員会 ごきげんパラソルでの展示 パネル「昭和26年沼津市中心地商店会社案内図」・写真32点
9月～2月	富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会 企画展「レール&ロード～富士・沼津・三島の交通ものがたり～」 写真3点
10月	大岡信ことば館 常設展示 写真3点・絵はがき1点
11月	沼津市若山牧水記念館 特別企画展 大正期列車時刻表4点
11月	社団法人日本戦災遺族会「戦争と平和展」写真「沼津空襲の惨状」(旧幕臣大野家文書・寄託)
3月	財団法人静岡県文化財団「山岡鉄舟と明治の群像展」
3月	代戯館まつり実行委員会 第7回代戯館まつり「工学博士 真野文二展」真野文二に関する資料
3月	富士市立博物館「富士山縁起の世界」愛鷹山縁起

### ☆刊行物掲載

5月	南駿農協『なんすん』第195号 写真「江原素六」
9月	(有)三猿社『ビジュアル 幕末1000人』錦絵「競勢酔虎伝 伊庭八郎」・写真「水野忠敬」
1月	(株)岩波書店 岩波新書 高橋敏著『清水次郎長 幕末維新と博徒の世界』 写真「山岡鉄舟」
1月	『鈴木明遺稿集』刊行会『鈴木明遺稿集 近代播磨の地域社会と民衆運動』角田真平肖像
2月	(株)学研パブリッシング『歴史群像アーカイブVol.12 幕末戦史』錦絵「競勢酔虎伝 伊庭八郎」・写真「仏式伝習隊」(江原素六関係文章)
3月	沼津史談会『沼津史談』第61号表紙 絵はがき「江の浦の風光」
3月	中央大学『中央大学史紀要』第15号 西川鐵次郎関係資料より2点

### ☆テレビ等映像使用

4月	静岡第一テレビ リアルタイム静岡 絵はがき「狩野川河口と我入道漁船の集合」
2月	SBSメディアビジョン 沼津城古図
3月	静岡第一テレビ ドキュメント静岡 写真「沼津駅前」「上土」

## 沼津市明治史料館通信

### 第101号

平成22年4月25日

編集・発行 沼津市明治史料館  
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1  
Tel.055-923-3335  
FAX055-925-3018

印刷  
みどり美術印刷株式会社

### 編集後記

一〇一号を機に全面リニューアルしてみました。いかがでしょうか？  
これまで以上に内容を充実させるとともに、見やすい紙面を心がけて、皆様に館の活動をお伝えしたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## おしらせ

### 第4回 そろくまつりを開催します！

平成22年5月16日(日) 10:00～15:00

5月17日の江原素六先生の命日にちなみ、今年も「そろくまつり」を開催いたします。

お餅・とん汁の無料配布(お椀・お箸をお持ちください)

竹細工・昔のおもちゃで遊ぶコーナーなどイベントが盛りだくさんです。

また、金岡・沢田小学校5年生有志による「寸劇 そろく物語」は見ものです。当館3階に移築復元されている江原邸を舞台に、子どもたちが素六先生の生涯を熱演します。ぜひご来館ください。

特別展示 子どもたちの見た江原素六 4月24日～5月30日